

鳥獣の 保護管理

地域一体となって獣害対策に取り組む（浜田地区）

～ 獣害に強い集落づくりを目指す ～

研究の背景・目的

本県では、市町や集落等による被害対策の取り組みはあるものの、中山間地域を中心に野生鳥獣による農林作物等への被害は依然として深刻な状況です。浜田市では西条柿へのクマの被害と水稻へのイノシシの被害が多発しています。そこで、浜田市のモデル集落において、集落ぐるみの獣害対策による実践型研究プロジェクトを実施します。地域住民の意識調査から地域一体となった鳥獣対策に取り組むための集落へのアプローチの方法を模索しながら、その手法を確立します。

研究方法

浜田市の田橋、横山集落をモデル地域にして、地域が一体となった獣害対策の取り組みの効果を検証します。住民の意識や出没・被害状況を分析して、効果的な被害対策のための技術手法を確立します。また、集落ぐるみでの被害対策の取り組みにマンパワーが不足している場合の解決策についても検討します。

研究状況

☆「美川西鳥獣対策専門部会」の結成

田橋・横山地区では、2012～2015年度にかけて集落の周囲にイノシシ対策用の広域ワイヤーメッシュ柵を15km設置しました。設置場所は、集落点検でイノシシの出没経路を明らかにして、さらに維持管理がしやすい場所を集落で話し合っ決定しました（写真1）。侵入防止柵は設置してからがスタートです。ここでは毎年6月に広域柵の点検と修理を行ってききましたが（写真2）、両地区の高齢化率は50%以上と高く、マンパワーの不足が大きな課題でした。そこで、今後の集落の獣害対策のあり方について、両地区の6集落の代表が集まって議論されました。そして、2015年12月に各集落から2名の代表を選出して、各集落が連携した「美川西鳥獣対策専門部会」が発足しました。今後は、この専門部会が中心となって、広域柵の維持管理や捕獲活動を実施していきます。集落の人手不足を集落間で補い合う新たな取り組みであり、部会と行政が連携して、今後の活動を効果的に進めていく必要があります。



写真1 広域柵の設置場所の検討



写真2 広域柵の維持管理の様子

研究成果の活用・今後の研究計画

モデル地域において、地域一体となった獣害対策によって被害の軽減効果を実証できれば、効果的な取り組みとして、県内の各地域へ普及させることができます。

また、獣害を集落の許容範囲に抑えることによって、集落の維持と活性化につながります。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 澤田 誠吾（さわだ せいご）

問い合わせ先 : 0854-76-3818（直通）

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp（代表）

試験研究課題名 : クマをはじめとする野生動物との軋轢軽減へ向けての地域一体となった取り組みの効果調査（研究期間：H24年7月～H28年6月）

